

一般社団法人 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

2018 年度

合同成果発表会抄録集



平成31年1月27日(日)

イラスト: @いらすとや

目 次

NO	演 題 ・ 所 属 ・ 氏 名	頁
1	誰もが暮らしやすい旭川の未来に向けた分野横断的フレイル対策の検討 旭川医科大学医学部医学科 ¹ 、東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座 ² 、 東京大学高齢社会総合研究機構 ³ 上野 裕生 ¹ 、熊谷 和美 ¹ 、西川 瑛亮 ¹ 、渡邊 由桂 ¹ 、田中 友規 ^{2,3}	3
2	統合失調症を有する者が地域生活において思い描きカバリー 旭川医科大学 医学部看護学科 工藤 美優、小泉差彩弥	3
3	開胸または開腹手術を受けた患者の外来術前指導 —術前呼吸訓練に焦点を当てて— 旭川医科大学 医学部看護学科 佐賀 瑞樹、竹中 彩奈	3
4	フィリピンにおける環境保全意識調査 北海道教育大学旭川校 社会科教育専攻 経済学ゼミナール 根元 沙介	4
5	租税教室の実践 —主体的で対話的な学びの実現— 北海道教育大学旭川校 社会科教育専攻 経済学ゼミナール 大屋 潤平	4
6	地元の魅力を再発見 ～ラーメン甲子園 2018 in 旭川～ 旭川大学経済学部経営経済学科 江口ゼミナール 瓶子 遼太、岩井 柊弥、堀川 太雅、川端 はるか、鈴木 淑仁、多田 頼輝	4
7	道内主要都市の拠点性とネットワーク構造 —地域のつながりを分析する— 旭川大学経済学部経営経済学科 江口ゼミナール 瓶子 遼太、岩井 柊弥、堀川 太雅	4
8	旭川市へのバイオエネルギー導入—稚内市バイオエネルギーセンターを事例に— 旭川大学経済学部経営経済学科 袁 雷 (えん らい) (出身地:中国 河南省 開封市)	5

NO	演 題 ・ 所 属 ・ 氏 名	頁
9	<p>東日本大震災被災地における8年間にわたる活動の問い直し:今、私たちにできることは何か?</p> <p>旭川大学ボランティアサークル円陣～EnginE～ 宮下 桂奈、浜田 由真、山下 雄大、金 相徹、谷野 遼也、永田 圭吾、 福島 颯将</p>	5
10	<p>旭川市中心市街地(買物公園北エリア)活性化について</p> <p>旭川大学経済学部経営経済学科 黒川ゼミナール 菊地 啓太(ゼミ長)、澤 夏海、澤 日向、深井 翔、山上 祐佳</p>	5
11	<p>超音波測位システムのフェーズドアレイ送信機による指向性実験</p> <p>旭川工業高等専門学校専攻科 生産システム工学専攻 伊藤 大道</p>	6
12	<p>分子の左右を識別するセンサーの開発</p> <p>旭川工業高等専門学校専攻科 応用化学専攻 鈴木 涼太</p>	6
13	<p>超音波距離計の受信信号の減衰特性を利用した補正の検討</p> <p>旭川工業高等専門学校専攻科 生産システム工学専攻 高橋 真悟</p>	6

演題発表1 13:00～16:00

1 誰もが暮らしやすい旭川の未来に向けた分野横断的フレイル対策の検討

所 属:旭川医科大学医学部医学科¹、東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座²、
東京大学高齢社会総合研究機構³、
氏 名: 上野 裕生¹、熊谷 和美¹、西川 瑛亮¹、渡邊 由桂¹、田中 友規^{2,3}

フレイルとは「加齢に伴い心身の機能が低下した状態」を指し、身体機能の衰えに限らず、精神心理的機能や社会的機能の問題も含んでいる。またフレイルは、適切な介入により改善が期待できる状態とされている。このように多面的なフレイルをテーマとし、高齢化著しい旭川市において、暮らしの課題や対策を検討することには意義があると考え、医療や介護に留まらず、経済・教育など様々な分野の市民を巻き込んだ活動を行ってきた。

2 統合失調症を有する者が 地域生活において思い描くカバリー

所 属:旭川医科大学 医学部看護学科
氏 名: 工藤 美優、小泉差彩弥

統合失調症を有する者が思い描くカバリーを明らかにする事を目的として、X市の就労支援施設に通う統合失調症を有する男性1名、女性2名に半構造化面接を行った。その結果、統合失調症を有する者が地域生活において思い描くカバリーは、病気を意識しなくてよい生活を基盤とし、家族との関係や結婚・恋愛・子育てが人生の大きな位置づけとなっていた。

また、仕事に折り合いをつけることや様々な支援の活用などがカバリーに必要であることが示されたことから、看護師は統合失調症を有する者が経験として積み重ね学習していけるような支援が重要であることが示唆された。

3 開胸または開腹手術を受けた患者の外来術前指導 — 術前呼吸訓練に焦点を当てて —

所 属: 旭川医科大学 医学部看護学科
氏 名: 佐賀 瑞樹、竹中 彩奈

呼吸器合併症を予防する目的で、手術を受けた患者がどのように認識し、実施していたのかを把握することで外来により良く繋げることを目的として、病院で胸部または腹部の手術を受けた男性4名、女性6名の患者を対象に構造的面接を行った。その結果、患者の術前呼吸訓練の現状や訓練を受ける患者の認識、入院後の患者の思いから、看護師は呼吸訓練における患者の努力に対して支持的な関わりを持つことで、術前呼吸訓練に対する効果の実感や患者の回復意欲を高める要因になりうることが示された。

4 フィリピンにおける環境保全意識調査

所 属：北海道教育大学旭川校 社会科教育専攻
氏 名：根元 沙介

フィリピンは、経済成長と都市人口増加に伴い、環境問題の解決が急務になっている。2017年度に、フィリピンの高校生と大学生に対して環境保全意識調査を行った。その際の調査結果から、現地の高校生・大学生の環境意識の高さが感じられた。その結果を受けて、2018年度は、母集団を高校生と大学生には絞らず、範囲を広げて同じ調査を行った。本報告では、昨年度と今年度の環境保全意識調査の結果を比較し、考察を行う。

5 租税教室の実践 -主体的で対話的な学びの実現-

所 属：北海道教育大学旭川校 社会科教育専攻 経済学ゼミナール 3年
氏 名：大屋 潤平

社会科の教科教育の中でも、国民の義務としての納税や、財政状況が少子高齢化における社会保障費の増大などによりひっ迫していることなど、財政や租税に関わる内容を多く取り扱う。本分野の学習の先駆けとなる小学校6年生を対象に租税に関する授業実践を行った。

6 地元の魅力を再発見 ～ラーメン甲子園 2018 in 旭川～

所 属：旭川大学経済学部経営経済学科 江口ゼミナール
氏 名：瓶子 遼太 岩井 柊弥 堀川 太雅 川端 はるか 鈴木 淑仁、
多田 頼輝

今年度、第3回目となるラーメン甲子園を開催した。地元の魅力に気づいてほしく、市内の全高校に呼び掛けた。出場校は去年の6校6チームから増え、過去最多の7校8チーム。ゼミを中心に「ラーメンの会旭川」のラーメン経営者や地元経済界の実務家の方々と本格的に実行委員会を組織して、私たちは企画から運営に至る事務局を務めた。高校生・大学生・地域企業が丸となったラーメン甲子園の全貌を報告する。

7 道内主要都市の拠点性とネットワーク構造

－地域のつながりを分析する－

所 属：旭川大学経済学部経営経済学科 江口ゼミナール
氏 名：瓶子 遼太、岩井 柊弥、堀川 太雅

旭川市は近隣8町と共に国土交通省の「地方拠点都市地域」に指定されている。当該「上川中部圏」地域を調べるうちに、旭川市の強い拠点性を確認できた。そこで、他の拠点都市地域との比較分析へと興味が広がり、研究対象エリアを広げることにした。分析の視点は、各エリアにおける拠点性とネットワーク構造である。当研究では、上川中部、帯広、千歳・苫小牧、函館、オホーツク北網、釧路の指定6地域、加えて札幌市を、拠点性とネットワーク構造の視点から分析する。

8 旭川市へのバイオエネルギー導入

一 稚内市バイオエネルギーセンターを事例に一

所 属：旭川大学経済学部経営経済学科 三年生

氏 名：袁 雷（えん らい）（出身地：中国 河南省 開封市）

1996年に稼働を開始した旭川市近文清掃工場は、燃やせるごみを焼却し、重さで約 1/10に、容積で約 1/30に減少させる。

しかし、水分が8割の生ごみ（年間2万トン弱）を焼却しており、効率が悪い。また、6年後に寿命を迎える。

稚内市バイオエネルギーセンターを参考に、市が検討中の「新たなごみ処理システム」に、「生ごみのメタン発酵⇒バイオガス・肥料」を採用することを提案する。

9 東日本大震災被災地における8年間にわたる活動の

問い直し：今、私たちにできることは何か？

所 属：旭川大学ボランティアサークル円陣～EnginE～

氏 名：宮下 桂奈、浜田 由真、山下 雄大、金 相徹、谷野 遼也、永田 圭吾、
福島 颯将

ボランティアサークル円陣は2011年から岩手県宮古市で、「必要とされる限り関わり続ける」をモットーにサロン活動を展開してきました。しかし近年、重要な転換点を迎えています。高齢者や子どもたちを中心にこのような活動へのニーズはまだまだあるものの、それに応えられてはいないと強く感じるようになってきました。

本報告では、宮古市の現状とこれまでの活動を考察しながら、今後の私たちの活動のあり方について探求します。

10 旭川市中心市街地（買物公園北エリア）活性化について

所 属：旭川大学経済学部経営経済学科 黒川ゼミナール

氏 名：菊地 啓太（ゼミ長）、澤 夏海、澤 日向、深井 翔、山上 祐佳

平成29年度、旭川市は新たな中心市街地活性化基本計画を策定した。本発表は、同計画を基礎にしながら、特に買物公園北エリア・緑道地区の活性化について、商店街で働く人々へのアンケート調査をもとに、大学生が活性化案を提示するものである。

11 超音波測位システムのフェーズドアレイ送信機による指向性実験

所 属：旭川工業高等専門学校専攻科 生産システム工学専攻

氏 名：伊藤 大道

本研究で提案する超音波測位システムは複数の超音波信号を用いることで3点間の距離を同時に測定することができ、測位にかかる時間を短縮できる。ただし、測位実験では超音波の指向範囲からはずれると測位誤差が拡大することが判明した。そこでフェーズドアレイ送信機を導入し、指向方向を制御する方法について検討する。ここでは、アレイ送信機の実験環境を構築し、指向性実験を行ったので報告する。

12 分子の左右を識別するセンサーの開発

所 属：旭川工業高等専門学校専攻科 応用化学専攻

氏 名：鈴木 涼太

私たちの身の周りの物質は全て分子からできている。この分子の中には、右手と左手の様に鏡に映した関係になっており、互いに重なり合わないものが存在する。このような分子は、時として人に危険な影響を与える恐れがある。例えば病気を治す薬も左右をもつ分子の1つであるが、左右が逆転してしまうと有害な毒として働くことがある。そのため本研究では、色により目視で簡便に分子の左右を識別できるセンサーの開発を検討した。

13 超音波距離計の受信信号の減衰特性を利用した補正の検討

所 属：旭川工業高等専門学校専攻科 生産システム工学専攻

氏 名：高橋 真悟

われわれの研究室ではリアルタイムで測位可能な超音波測位システムの開発を行っている。3点測定の原理では位置情報の取得には3点間の距離測定を必要とする。本提案手法では距離測定においてアナログ回路を用いることにより測位にかかる時間を短縮させている。ただし、測定対象物との距離が遠くなるにつれて受信信号が減衰し、それが測定誤差の要因となることが判明した。そこで本研究では、受信信号の減衰特性を利用して誤差を補正する方法について検討する。



一般社団法人 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム
連絡先：旭川市1条通8丁目108 フィール旭川7階
電話：0166-26-0338
URL：<http://www.awbc.jp/>